第51期（2004年10月期）日本語研修コース

鹿　島　　央

昨年の10月期と同様に，研究留学生の配置が少なくなり，４月期とのアンバランスが大きくなってきている。

１．研修生

A．大使館推薦（研究留学生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は，11ヶ国17名で，うち４名は日韓理工系学部予備教育生である。進学先は名古屋大学12名，滋賀大学１名，愛知教育大学４名であった。このうち，６名は教員研修生で，残りの７名が研究留学生であった。今回，名古屋大学進学者のうち１名（ベトナム：国際開発研究科）は，初級レベルであったが，研究活動のため全学向け日本語講座を受講した。

B．学内公募（私費留学生）

今期も法学研究科から国費特別コース７名およびJICE（日本国際協力センター）支援無償留学生（JDS）10名を受け入れた。他に学内からは情報科学研究科１名（中国），国際言語文化研究科２名（中国），工学研究科２名（インドネシア，中国），連携基盤センター１名(中国)，教育発達科学研究科１名(インドネシア)，経済学研究科１名（ロシア）の合計８名受講申し込みがあり，面接と筆記試験の結果，全員について受講を認めた。

以上のように，第51期は国費大使館推薦留学生13名，学内推薦留学生25名の合計38名で，既習者が13名，未習者が25名(うち1名は全学向け日本語講座)であった。なお，未習者の大使館推薦の留学生１名は，体調不良により一時帰国し，12月初旬に再来日したが，その後は，全学向け日本語講座初級１で学習を続けた。したがって，本コースでは36名が受講したことになる。

２．クラス編成

授業は，５クラス編成とし，専任教官２名，非常勤講師11名の計13名が担当した。クラスは50期と同様に既習者（13名）のために特別クラスを２つ設け，残り３クラスを初級者（23名）とした。

３．時間割と日程

時間割は50期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月12日開講式，10月13日授業開始，冬季休業12月27日～１月７日，１月11日授業再開，３月10日修了式。春季休業中，希望者は全学向け春季集中日本語講座（２月14日～３月８日）を受講した。

４．カリキュラム

１）初級学習者（３クラス）

未習クラスのカリキュラムは50期の内容とほぼ同じであったので省略する。ただ，Web-CMJ の改訂版ができたので，授業内で使用し，評価をしてもらった。

２）既習者（２クラス）

(a)　既習者13名を２つのレベルに分けて特別のクラスを設けた。１つは，初級前半修了程度の日本語力がある７名，他の一つは初級後半修了程度の６名である。カリキュラムは，⑴教科書『*A Course in Modern Japanese [Revised Edition], Vols. 1 & 2*』，『現代日本語コース中級Ⅰ』（名古屋大学日本語教育研究グループ編）を中心とする授業，⑵ TOP，⑶専門について話す，の項目で構成した。

⑴の教科書を中心とした授業は，初級前半修了生については，Vol. 1の第６課から始め，最初の３週間で終了し，10週目の後半で Vol. 2が終わるような進度であった。その後，『現代日本語コース中級Ⅰ』を学習した。

(b)　初級後半程度の修了生は，法学研究科 JDS の学生６人で，本国で350時間程度，７月に来日後120時間程度の日本語学習を行っている。

このレベルの目標は，以下の３点である。

・中級レベルの総合的な日本語運用能力の育成
・大学での勉学，研究に必要なコミュニケーション能力の向上
・専門課程で必要とされる読解能力の養成

学習内容

前年と同様に，５週目までに『*A Course in Modern Japanese [Revised Edition], Vol. 2*』を終了し，６週目から中級教科書による学習を行った。中級段階での教科書以外の学習内容は49期と同様である。その内容は，学生の発表，作文，グラフの説明，インタビュー活動２回，読解教材および専門の発表である。

インタビュー活動

インタビューにより情報を集め，資料を作成し口頭発表を行う活動である。テーマは，名古屋大学の学生の生活に関するものと，自分の専門に関係のある分野について１回ずつ行った。自分の専門に関する分野では，司法試験をこれから受験する学生へのインタビュー，法律事務所で弁護士として活動している方へのインタビュー，および名古屋地方裁判所でのインタビューを行った。

読解

49期と同様の内容で行った。

・日本の人口構成（２コマ）
・日本の歴史（３コマ）
・日本の政治（２コマ）
・日本の会社組織（２コマ）
・就職活動（２コマ）
・フリーター（２コマ）
・日本国憲法（３コマ）

漢字

初級教科書300字および中級教科書・読解教材307字を導入，練習した。

授業でのワークシートは学生の負担を考え，15字中５字のみ各自で調べてくるような方法をとった。参考資料として『KANJI CONTEXT　中・上級者のための漢字と語彙』を用いた。

専門の発表について

他の学生と同じように個別指導を行い，既習者のみで発表を行った。

５．まとめと問題点

１）国費研究留学生の配置が少なくなる中で，10月期については学内公募の方が多い状況が続いている。この傾向については，国が今後どのような研究留学生の受け入れ方針とも関連するので，機会を捉え，説明をうけ，今後の日本語教育プログラムに生かしていく必要を感じる。

２）支援無償留学生（JDS）の中には，本国で250時間以上学習してくる学生もいるが，これまでも再三言及されているように，ほとんどが初級レベルからのやり直しを行っている。本国での日本語学習への時間の使い方について，少し考慮する必要があるのではないかと考えられる。